

先祖彼岸大供養会

9月21日(火) 午前10時より



消しゴムはんこ 高橋正人作 己書 辻みゆき

轉法輪

一念の淨心は
宛も帝網の如し

弘法大師

令和三年九月一日発行
発行所 犬飼山轉法輪寺
〒六三七一〇〇七二
奈良県五條市犬飼町一二四
電話〇七四七二二一四四〇三
FAX〇七四七一五一四七一七
編集発行人 桑山聖淳
印刷所 森本印刷工業所
和・伊都郡かつらぎ町妙寺

「玄鳥去」の季節がやってまいりました。子育てを終え、南へ帰っていきます。都会で暮らす子どもたち家族の帰省は自粛となり、静かな夏の終わります。きつと、来年は元気な姿で戻ってきてくれることでしょう。

秋のお彼岸法会

九月二十一日(火)

先祖彼岸供養法会

丹生狩場明神祭

十月九日(第二土曜日)

午前10時より

御受戒会

十一月二十一日(日)

台風季節ですので、警報など発令時には法要を延期する場合があります。ご了承くださいます。

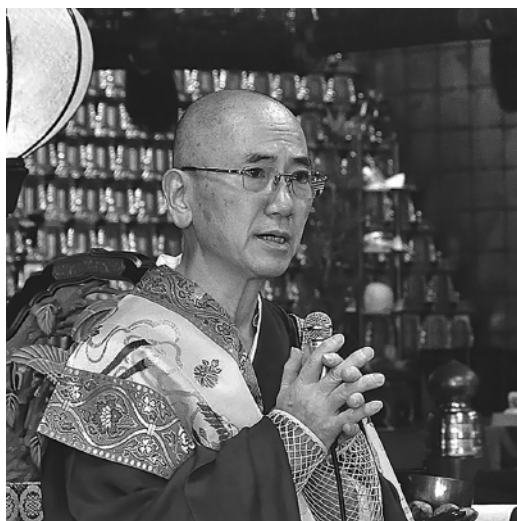
犬飼山轉法輪寺

お大師さまのお言葉

仏の智慧は、張り巡らされた網のようにすべて繋がらう。ひと時でも真に清らかな心を起こせば、網を揺らし、世界すべての仏たちと縁を結ぶことができる。

伯母の供養に想う

轉法輪寺住職 桑山慈紹



去る八月八日、母の願いで故・西本幸^{みゆき}さんの供養を致しました。幸さんは、母の姉にあたる方で、昭和二十年八月七日、行年二十二歳という

短い生涯でこの世を去りました。

昭和二十年の夏、太平洋戦争は末期に入り、本土への空襲が全国各地で行われました。伯母もその犠牲者の一人です。愛知県豊川市の海軍工廠^{しょうこう}に併設された病院で、看護師として働いていた幸さん。八月七日午前十時に空襲が始まり、落とされた爆弾は八百トンを超えたと記録されています。その後、行方を祖父が探し回ったものが見つかることなく、数千人の遺体と共に、近くの山にまとめて葬られ、遺品だけが戻されたそうです。

幸さんのため、塔婆や供養の品々を供え、大師御宝前にて至心に御回向させていただきました。供養の際に伝わってきたところは、「悲惨な戦争が二度と起こらないように、私のような犠牲が二度と出ないように、平和の大切さを伝える努力をしてく

ださい。どうか、お願いします。」というものでした。

戦後に、豊川空襲で生き残った方たちが、空襲の日にちなみ「八七会^{はちななかい}」として、慰霊や空襲の記録、語り継ぎなどを行ってこられました。会員の高齢化のため、令和二年の八月七日にその活動を終えられました。

戦争体験者の言葉は貴重かつ大変重みのあるものです。ですが、八七会のように、実体験をもつ方々はだんだんと減っていきます。戦後に生きる我々は、その記憶に今こそ耳を傾け、正しく知り、語り継がなければなりません。

二度と戦わないことを。平和の祈りを、大きく広めることを。そして、空爆の相手をも許すことを。もう一度誓いを大きく掲げ、声をあげなければならぬのです。

合掌

輪 法 轉 (3)

名譽住職 桑山聖規僧正 から学んだこと

額田寺住職 畦田清祐



下里庵(北条鉄道播磨下里駅)

私は兵庫県の無人駅でお大師さまをお祀りし、そこを憩いの場としてみ

んなでお喋りをする活動をしてい
ます。年齢性別を問わず様々な方々がお
見えになり、お菓子を食べたり茶を飲
んだりしながらお喋りをします。会話
の内容は雑談から悩みごとの相談まで
様々です。

人前で話すことが大の苦手で、「坊さ
んは祈る姿そのものが説法みたいなも
んや、言葉巧みにありがたい法話をし
ても胡散臭いだけ。」などと心の中で言
い訳し、語ることから逃げていた私が
「いくら苦手でも坊さんは語らなけれ
ばならない」と方針転換し、お喋りを
するための場所を作ろうとまで思うよ
うになったのは、名譽住職桑山聖規僧
正(以下院家さん)のお姿に深い感銘
を受けたからです。

私は高野山の修行道場を卒業してす
ぐに修行僧として住み込みでお世話に
なり、日常生活から大法要まで犬飼の
お寺の様々な場面を見せていただきま
した。毎日絶えることなく訪れる悩み
ごと相談の方々、法要日には欠かさず
お参りされる熱心な信徒の方々、正御

影供や子安地藏尊の大祭には堂内を埋
め尽くすほどの参拝者、法要中は勿論
のこと、準備から後始末までご奉仕さ
れるお世話の方々、季節ごとに郵送
される何千通もの轉法輪新聞、節分前
には山のように積み上がる大量の厄除
祈禱札…。田舎のお寺がこんなに活動
的で生き生きしていることに驚くばか
りでした。

住み込みの生活をさせていただけ
いると次第に気付いてきます。ここは
風光明媚な観光地にあるお寺でもな
く、特別な何かに御利益があると古来
より伝説のあるお寺でもありません。
ということは、多くの信徒の方々は
元々多かつたわけでも自然に増えたわ
けでもないのだと。大勢の信徒の方々
その一人ひとりが何かのご縁によって
救いを求めてこの地を訪れ、本堂の仏
さまの前で院家さんと直接対話し、院
家さんの祈りに触れ、仏さまのありが
たさを感じるに至った方々ばかりなの
だと。院家さんが対話と祈りによつて
仏さまと人々とのご縁を結ぶ活動を何

水児の個人供養を受け付けています。毎日9時、11時、14時、16時
からお勤めを致します。

十年にもわたって続けてこられた結果なのだと。このことに気づいたとき、もう尊敬のほかは何もなく、ここでは院家さんの日常生活そのものから学ぶのだと確信いたしました。

「若いうちはどんな修行しなさい。」五年間の修行僧生活で何度となくかけていただいたお言葉です。

虚空蔵菩薩求聞持法(虚空蔵菩薩の御真言を百万遍お唱えする修行)をお勧めいただいたときは、「四国の二十一番で求聞持行者さんが満願されて出て来られた日に偶然当たってねえ。アンタも求聞持やってみんかね? どうだね? ありがたいよ。もしやるんじやったらワシが手紙を書いて頼んであげよ。」とニコニコしながら勧めてくださいました。またその二年後、高知県のお大師さまが求聞持法をされたという伝説の岬を訪ねたときは、「畦田君、海が綺麗でええ所じゃなあ。アンタここでまた求聞持やってみんかね? どうだね? ありがたいよ。もしやるんじやったらワシが手紙を書いて頼んであげる

よ。」と嬉しそうに再び勧めてくださいました。貴重な修行を二度もさせていただけたこと

は、若者が修行することをとても喜んでくださる院家さんのお導きがあつたことだと心から感謝いたしております。



悩み苦しみを相談に来られる方々一人ひとりに向き合い、その方々のために祈り、その方々が信仰心を起こして救われるところまで導く、そのためには修行不足ではいけない、怠けてはいけけない、本気で祈らなければならぬ、そのための「若いうちはどんな修行しなさい。」だったのだと思えます。時々遊びに行っていたのがバレたときなど、机をバンツ〜と叩いて「アンタは月給取りに来とるのか修行しに来とるのかどっちじゃ〜」叱られたりもしましたが、日々最前線で人々を救うための活動を続けていらっしやった院家さんからすれば、それは当然のお

気持ちだったことでしょう。

修行僧として生活させていた、五十年間で、院家さんの服装が法衣と務衣以外であつたのをたつたの一度も見たことがありません。遊びに行く、贅沢なものを食べに行くなどは完全に無縁、年がら年中、朝から晩まで人々の悩み苦しみに向き合つて祈り尽くすというお姿をお示しくございました。

「ワシはお大師さんの弟子やから、未来が尽きるまでお大師さんのお手伝いをさせてもらいたいと思つとるんじや。」というお言葉が思い出されま。恥ずかしいことに私はそのような清らかな生活ができておりませんが、せめて院家さんの目指された方向と同じ方向にだけは向いておきたいと願っております。そこで最初に述べました無人駅のお喋り活動へとつながりました。ただ私の活動など院家さんの真似事にも及ばない段階のことです。

しかし、そこで出会った人々とシツカリ向き合い、その方々が心に悩み苦しみを抱えることになったとき、救い

輪 法 轉 (5)



を求める相手として自分のことを思い出してもらえような人間になりたいと思っております。自分の心に問うてみますと、私が人と話すのが苦手なのは自分の修行不足からくる自信の無さだと感じます。
「アンタも頑張つとるねー」と言ってもらえるようにコツコツと修行を続けたいと思っております。

夕飯時、テレビをつけければ懸命に汗を流す選手たちの姿。連日のように流れるメダル獲得のニュース。私も、箸を進めるのも忘れて、世界一の競技を「堪能」していました。
堪能。「満喫する」の意味の他にも、「あの人は英語が堪能だ」などと、優れたわざをほめるときにも使いますね。
元々は「カンノウ」と読み、〈堪能〉の能力のことでした。古く仏典には「勝れた堪能を得る。名づけて力となす『摩訶止観』」と説かれていま



第三回 「堪能」

す。忍耐をもって堪える力が、道を拓くことを示されました。何かを手に入れたいと願うなら、地道な努力を繰り返さなければならぬ。一日一歩ずつ、本当に前に進んでいるのかどうかもわからないようなときに、「堪能力」が試されるのでしょうか。
オリンピックに出るような人たちを評するときには、技術や体力だけでなく、そこに至るまでの道のりも見て、「すごい人だ、堪能だ」と言うのがふさわしいのかもしれないですね。



令和四年厄除け星祭り祈祷

十一月初旬より受付開始予定

男性本厄 二十五・四十二・六十一

女性本厄 十九・三十三・六十一

(表記は数え年)

若かりし頃の、名誉住職の修行体験をまとめた『救いを求めて』を来春に再版する予定です。



お地蔵さまの よだれかけ

K・T

犬飼山とご縁ができて、十五年以上になります。健康面や家のことなど、いろいろとご指導いただいております。

一昨年の六月に、息子の結婚のことどうかあったときのこと。待合室に入るとすぐに、机の上に置かれてあった「お地蔵さまのよだれかけ」に目が行き、「あっ私、これ作らなあかんわ」と思ったのです。吸い込まれるような本当に不思議な感覚だったこと、記憶しています。すぐ手に取り持ち帰って、「はやく子宝に恵まれるといいなあ」となにげなく願いつつ作り、奉納させ

ていただきました。そしてコロナ禍のなか、結婚式に新婚旅行と無事にとり行うことができました。

去年の四月初めのある朝、息子から電話がありました。「報告することがあるねん。」「えっ、どうしたん?」「子どもできたわ。」「うわあ、ほんまに！よかったなあ。」「秋に初孫誕生との嬉しい便りでした。

そうして、コロナ禍真つ只中の秋、無事にとても可愛い女の子が生まれてきてくれました。あつという間に八カ月となり、スクスクと元気に育つてくれています。この上ない喜びで、益々愛らしくて、じいじ・ばあば馬鹿になっっている今日この頃です。

いま改めて思い返しますと、結婚から一連のいい流れは、すべて一昨年のあの不思議な気持ちから、よだれかけを作り奉納させていただいたことによっってお導きくださったものに違いないと思うのです。本当に感謝しております。

去年に今年と、健康を祈りながら、よだれかけを作り奉納させていただきました。これからもずっと変わらずに続けさせていただいて、犬飼山にお参りに伺おうと思っております。

奥之院の

お地蔵様に願いをかけて

H・N

お釈迦様の入滅後、五十六億七千万年後に出現する仏様が弥勒菩薩だと言われています。空白の無仏期間、私たちの罪や禍いを一身に受けて助けてくださる仏様が地蔵菩薩です。

奥の院には沢山のお地蔵様がおられます。犬飼山の信者様が心を込めて縫ったよだれかけを奥の院におさめられていると聞き、今年初めて参加させて頂きました。

七月三十日、快晴の高野山奥の院。

ご詠歌をお唱えしたい方を募集しています。犬飼詠歌講では少人数で気遣いなくご詠歌を覚えられます。各地の巡拝でもお唱えできます。

輪 法 轉 (7)

新しいよだれかけを待っているお地藏様を探してキョロキョロ：「あ、おられた！」参道脇のお地藏様や、高い所におられるお地藏様。重なつて判り辛いお地藏様、五輪塔の下や奥まった場所です。忘れ去られたようにひっそり佇むお地藏様も。「オンカカカビサンマエイソワカ」御真言を唱えながら、古いよだれかけを外し、御身をぬぐい、新しいよだれかけを付けていきます。杉の木立からのガラガラ太陽。今年一番と予報が出ている気温に汗びっしりでしたが、新しいよだれかけで装われたお地藏様に満足！

最後に御廟へお参りし無事に終了した事をお大師様へ報告、ひぐらしの声に見送られながら、高野山をあとにしました。

私と犬飼山とのご縁は母を通じてです。母は不思議な体験をして以来お大師様の日、お不動さんの日、星祭、地藏盆やお正月は必ず犬飼山へお参りに行っていました。

不思議な体験とは、父の病気のことです。ある時、急に父が「腹が痛い」と苦しみだし病院へ、即入院になりましたがいくら検査をしても原因が判らず、お医者様もお手上げだったそうです。母はさすがの思いで犬飼山へご祈禱を受けに行つたところ「家を守っている神様のお腹に杭を打ち込んでいるのが原因」と言われたそうです。

早速帰つて家の中や外を調べたところ、家の西側で打ち込まれた杭を見つけてきました。以前は風呂も台所もマキを燃料にしていたため、木を伐つたり割つたり、その木を固定するために打ち込んだ杭だったようです。打ち込んだ父自身もすっかり忘れ、家族も知る由もなく…。この杭を抜き神様にお詫びをしたところ、腹痛が嘘のように治まったのです。

以来母と一緒に犬飼山にお参りするようになり、私も流産の危機から救われ、子供の名前も付けて頂きました。その後、母の高齢になるにつれお参り

も減り、八年前に母が亡くなつてから犬飼山への足も遠のいていました。

今回地藏尊大祭にお参りさせて頂き、お地藏様のよだれかけの付け替えにも参加して、再び犬飼山とご縁が出来ましたこと、お地藏様ともご縁が結ばれましたこと嬉しく思っています。

奥之院のお地藏様のこと、母を偲びたい巡らす色々なこと。忘れることのできない一日を過ごさせていただきました。ありがとうございます。

合掌



お地藏様のよだれかけ作りにご協力下さい。
詳しくは、お寺までお尋ね下さい。

地蔵尊大法会

去る7月24日



地蔵堂の永代供養水児霊を供養しました。



回向を受けた方々の経木をお一人ずつ読み上げ供養します。



ご詠歌講の皆さまによるお唱えの
声が法会を彩ります。



奉納頂いた新しい提灯を掛けさせて
いただきました。ありがとうございました。

丹生、狩場明神感謝祭
十月九日(土) 午前10時より
弘法大師空海さまを高野山に導いた
当山鎮守神さまに、報恩の法会を
開きます。どなた様もぜひお参りく
ださい。

先祖供養の申し込み
当誌同封の申し込み用紙に、戒名命日
等を記入してお持ちください。供養を
申し込まれたご先祖さまは、一年間教
堂において供養させて頂きます。
遠方の方は送付して頂くか、FAXで
の受付も可能です。
供養料 一霊 六百元
締め切りは法要前日(九月二十日)

先祖彼岸
大供養会
九月二十一日(火)
十時より

